

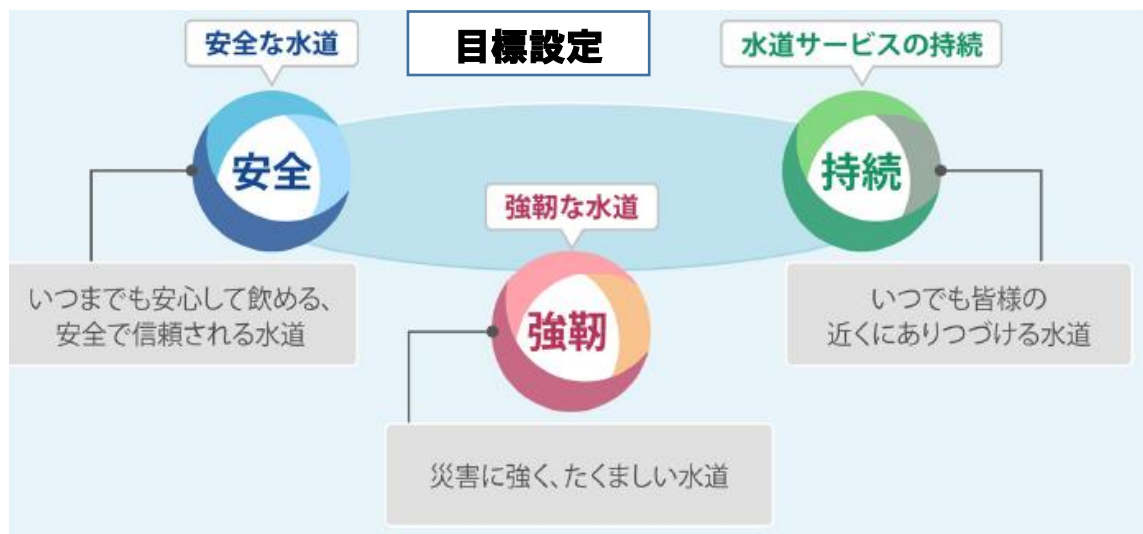
水道事業ビジョン中間見直し（骨子）

1. 見直しの趣旨

水道事業ビジョンは、平成30年度からの10年間を計画期間として策定を行い、その折り返し地点である令和5年度において、前期のまとめとして点検を行い、この間における、事業環境の変化に対応した見直しにより、本ビジョンの実現性の向上を図る。

このため、中間見直しを実施し、後期の計画期間に係る施策について所要の見直しを行う。

2. 目標設定における中間評価（別紙1）



3. ビジョン策定時からの事業環境の変化（見直し内容）

3-1 東部丘陵地の開発による施設整備

- ・青谷先行整備地区の整備（基幹物流施設 令和8年度供用予定）

3-2 その他施設整備

- ・第3浄水場浸水対策事業
- ・府営水道第2分水関連事業
- ・中区配水池の移転による更新事業
- ・第2浄水場関連事業

4. 後期計画に反映させる事項

3. の事業環境の変化に加え時点修正が必要な事項

- ・燃料費、資機材費、労務費、府営水道の値上げ等のコストアップ
- ・実績を基にした配水量等
- ・実績を基にした基幹管路の整備

5. 事業継続のための検討

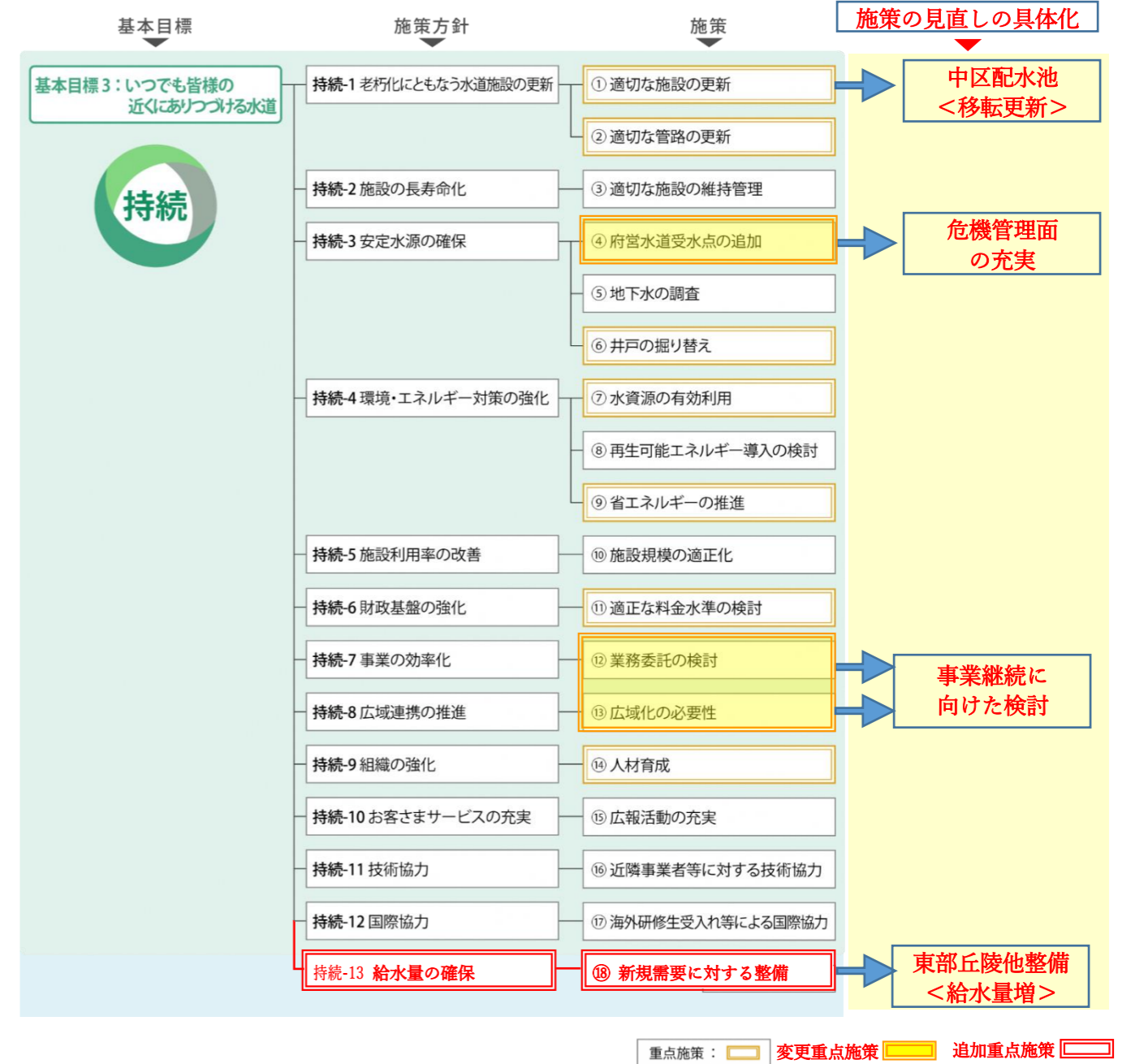
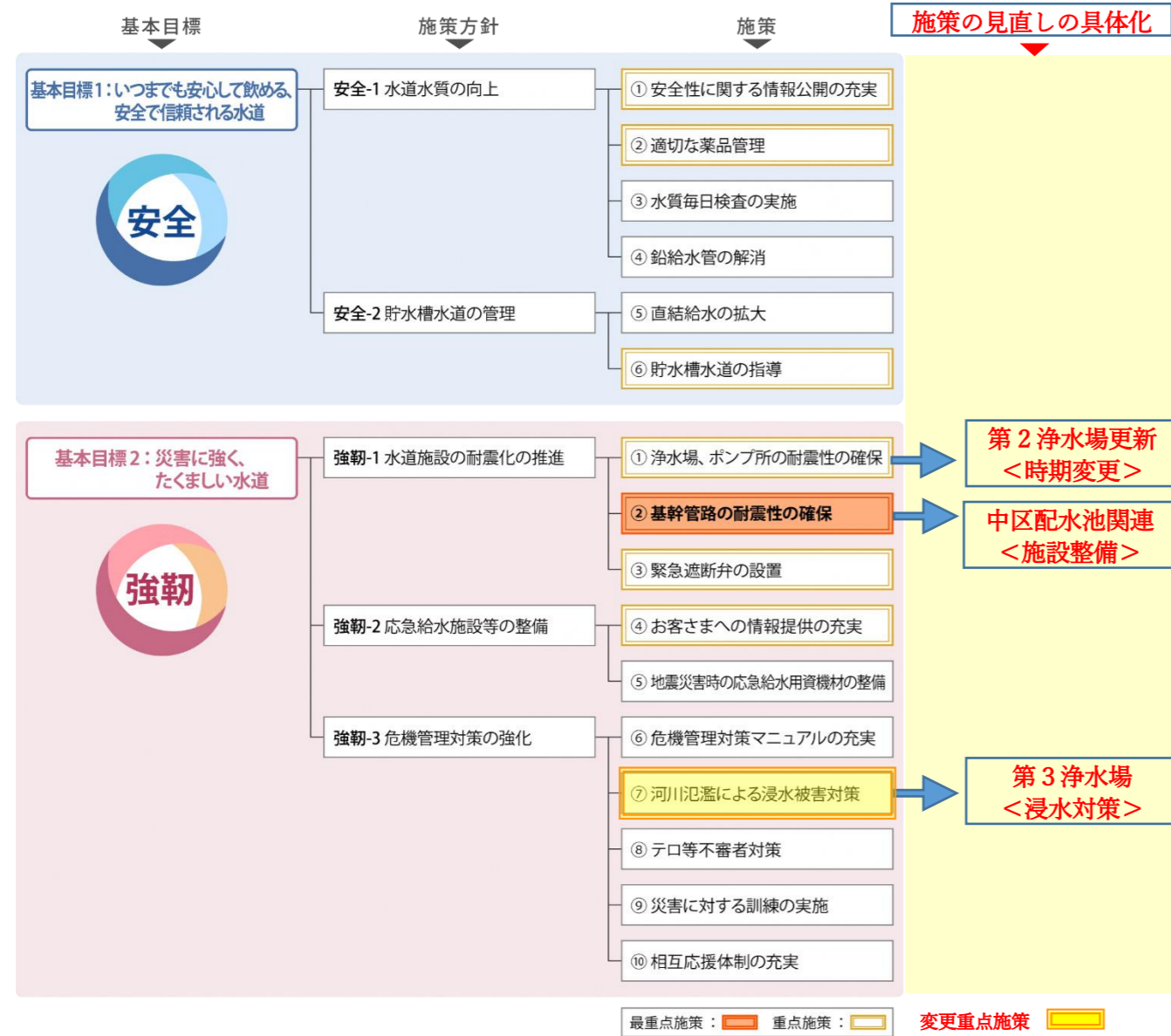
- ・浄水場運転管理等の課題解決のための検討

6. その他

東部丘陵地中間エリアの整備

市において、令和10年度供用予定で計画を策定中であり、計画策定後に、詳細の検討が必要となる

7. 後期計画の施策内容の見直し
実施内容の見直しの具体的事項



目標設定における中間評価



いつまでも安心して飲める、安全で信頼される水道

目標設定	指標	単位	平成28年度	令和3年度	自己評価	令和9年度
安全性に関する情報公開の充実	水安全計画の公表	—	平成 29 年度作成	公開(概要版)	○	公開
	毎月検査の結果の公表	—	一部公開	一部公開	→	公開
適切な薬品管理	次亜塩素酸ソーダの温度上昇抑制対策	—	未整備	一部整備	○	整備済
貯水槽水道の指導	指導・助言の充実	—	継続実施	継続実施	→	充実



災害に強く、たくましい水道

目標設定	指標	単位	平成28年度	令和3年度	内 容	自己評価	令和9年度	備 考
耐震性の確保	浄水施設の耐震化率	%	78.2	78.2	耐震性能を有する施設能力の割合	→	100	23,300/29,800 (第2浄水場を除く)
	ポンプ所の耐震化率	%	93.3	91.3	〃 (宮ノ谷P 2,016→878.4 にダウンサイジング更新)	→	100	3,892.4/4,262.4 (長谷山ポンプ所を除く)
	配水池の耐震化率	%	73.2	77.6	〃 (中区配水池の法面補強により 1,000 が向上)	○	100	17,700/22,800= (低区配水池・長谷山配水塔を除く)
	基幹管路の耐震適合率	%	24.1	40.3	耐震性能を有する基幹管路(Φ300以上の配水管等の割合)	○	70	16,202/40,232=
緊急遮断弁の設置	緊急遮断弁設置数	基	0	0		→	1	
お客さまへの情報提供の充実	水道危機対策マニュアルでの給水場所の公表	—	公表	公表		→	充実	



いつまでも皆様の近くにありつづける水道

目標設定	指標	単位	平成28年度	令和3年度	内 容	自己評価	令和9年度	備 考
適切な更新計画	法定耐用年数超過設備率	%	47.4	52.6	各設備の法定耐用年数超過の割合 更新が進んでいないが、維持管理により延命対応を実施	×	50	30/57=
	管路の更新率	%	0.5	0.9	1年間の更新延長の割合	○	0.6	2,502/263,597=
水資源の有効利用	有収率	%	98.5	95.5	料金収入になる水量と配水量の割合 基幹管路等の工事の洗浄水の増等が考えられる	×	現状維持	漏水防止調査は継続実施中である 発見後は速やかに修理を実施
適正な料金	給水収益に対する企業債残高の割合	%	442.4	345.1		○	320	4,415,521/1,279,322(千円)=
	給水人口1人当たり企業債残高	円	62,719	58,959		○	55,000	4,415,521(千円)/74,892=
	企業債残高実数	百万円	4,843	4,416		○	4,000以下	
	料金回収率	%	97.1	111.2	給水原価に対する供給単価の割合	○	100以上	169.36/152.34

自己評価 ○;達成 →;継続 ×;未達成